

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500097
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム けやきの里
所在地	愛媛県新居浜市大生院154-3
自己評価作成日	平成 21年 12月25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしい日常生活が過ごせるよう、一人一人マイペースに活動を促している。また、畑仕事もできる方には積極的にしてもらっている。週1回の音楽療法もほぼ全員が参加し、活動性の低下があるかたも徐々に活動的になってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個人の記録は全てパソコンで管理し、日々の記録も携帯端末で入力する等、記録にかかる手間を簡素化し、同時に個人情報の取り扱いにも配慮している。地域との関わりも積極的で、ホームとして自治会に加入し、町内や公民館の掃除等の行事にも参加している。家族とは良好な関係が築けており、管理者をはじめ職員は家族の来訪時等に利用者の日々の様子を報告したり、利用者の昔の様子を聞き取るなどしている。また、家族もホームの運営に関心を持っており、ホームの庭の剪定作業等を行ってくれるなど、家族会を通じての積極的な関わりがある。また、多くの家族が会や行事に参加しており、意見や要望を出してくれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームけやきの里

(ユニット名) クス棟

記入者(管理者)

氏名 松浦 しのぶ

評価完了日 21年 12 月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築し、近隣の方々との身近な関係を作っている。また、管理者職員は、日々の介護現場や職員研修、ミーティング等で理念を確認しあいケアの統一を図るよう努力している。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を的確に捉えて理念として明文化し、具体的に実践につなげているが、前法人からの急な運営引継ぎという特殊な事情もあり、職員全員で話し合いを持つまでには至っていない。管理者は、皆で話し合っよりよい理念を作っていきたいと考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し、地域の活動に積極的に参加している。今年度は、自治会の活動はもちろんのこと事業での活動へも地域の方々が参加して頂けるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、町内や公民館の掃除等には積極的に参加している。また、地域の中学生が和太鼓を演奏してくれたり、ボランティアに来てもらうなど、ホームの行事等を通して交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症高齢者の理解を深める活動は、あまり出来ない状態です。事業所が開所して1年であり、今後積極的に取り組んでいくよう努めます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見や検討項目について職員会で報告し、検討している。いただいた意見に対しては実行できるように取り組み次の会で経過を報告している。	
			(外部評価) 行事に合わせて開催するなど、参加しやすいよう工夫している。家族会の会長や民生委員も積極的に参加しており、報告や意見交換が活発に行われている。また、職員も参加し、参加できなかった職員には職員会で報告してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月事業所の入居者情報を市の介護保険係りに届け情報を開示したり、情報をいただいたりしている。また、年間数回のグループホーム連絡会も市の会議室で行い市町村の職員とも交流できている。	
			(外部評価) 待機者の情報や困難事例等の相談等で、市担当者と密に連携をとっている。市内事業所の連絡会も開催されており、地域包括支援センターの職員との関わりも深く、協力関係を築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 今まで身体拘束を行わなければならなかった事例はないが身体拘束については職員が理解できるように指導できている。	
			(外部評価) 全職員にマニュアルを配布し、身体拘束について職員会等で話し合っている。玄関の施錠は夜間のみとし、利用者も簡単に開けることのできる形状のカギを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について随時、話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り、話をする機会を持つように心がけ働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度等が必要な方については管理者が対応できるよう理解をしている。職員には制度や入居者の状況についての説明は行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書、入居規約等をもとに、ご家族が不安を持つことのない様に不明な点はないか尋ねながら説明を行い契約の作業を進めるよう留意している。入居前や面接時にも事前に出来る限りの説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の介護の場面、ご家族のご来訪時に職員が意向を聞いたり意見を言いやすい雰囲気を作っている。運営推進会議にも参加していただき市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。 (外部評価) 家族会が結成されており、剪定作業等の美化活動を積極的に行ってきている。また、多くの家族が会や行事に参加しており、そこで意見や要望を出してくれている。管理者や職員は家族からの意見等を運営に活かそうと努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会で意見を聞くようにしている。また、日々の業務の中でも気軽に意見が言えるような雰囲気をつくる努力をし職員の意見を反映させた運営を行っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員の意見等をよく聞いており、必要に応じて法人本部にも意見を伝えている。職員会等でも意見を出し合える雰囲気づくりに努め、サービス向上のための意見を出し合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩から随時実践のアドバイスをうけられるようにシフトを組む、職員会において小規模な研修を行うなど職員の質の向上に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会し職員も勉強会に参加して他のグループホームの職員と交流し勉強できるようにしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 相談時には事前に家族や担当相談員から情報を得た上で本人と面接しゆっくりと話をする時間を作っている。まずは、困っていることがないか伺い安心できるような言葉がけをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時に十分な時間をとりこれまでの経過について話を聞くようにしている。今までどのような事に困っていたのか、不安なことはないか、入居後はどのような事を望まれているか、ゆっくり伺うように気をつけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり他のホームの紹介をするなどの対応をしている。受診が必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。漬物のつけ方や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え協力しながら生活をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の来訪時や家族会のおりには入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え協力いただいている。また、月に1度の「ふなとだより」により日常の様子やホームからのお願い事を伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の希望により知人宅に電話をかける支援をしたり訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、知人に電話をかけたリ墓参りに行く等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。また、馴染みの人や場を把握するために、利用前に家族やケアマネジャー等から情報を収集し、職員間で共有できるよう記録している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の事業所に移られた入居者を職員が訪ねたり、退居後も入居者のご家族が職員を訪ねて来られたり、管理者に介護保険関係の書類の相談にみえたりと継続したお付き合いが出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察をするように心がけている。 (外部評価) 利用者との会話の中から把握した新たな情報等を職員会などの機会に話し合いながら、利用者一人ひとりの思いを大切にしていけるよう努めている。また、思いや意向の把握が困難な場合でも、家族に聞き取る等しながら利用者本位で検討し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力し把握できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 職員会でモニタリングや介護計画の作成等を行っている。利用者や家族の意見や希望も聞き取り、反映するよう心がけている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 記録が電子処理になった為タイピングの練習中であり、気づきや工夫を詳しく日誌に記入できるまでには至っていない。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域のボランティアサークルへの参加を今後積極的に取り組んでいきたい。傾聴ボラの取り入れも検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医の訪問診療を受けたり、事業所の協力医 のほかご家族の意向を聞き通院の介助を行っている。 定期の受診は原則として家族の対応でお願いしている がご家族の都合により随時職員も対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>専門医への受診は家族に対応してもらっているが、状 況により職員も関わっている。協力医療機関とは良好 な協力関係にあり、昼夜を問わず往診してくれる等、 安心な体制がある。また、職員の中に看護師がおり、 適切な医療を受けられるように体制を整えている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>職員に看護職がおり、体調不良時の対応や日々の健康 管理を行っている。また、主治医と密な連絡体制がで きており随時訪問して頂けるようになっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院 中は職員が様子を見に行き回復状況の把握に努め家族 とも連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の重度化に伴う指針を作成し入居時に説明して いる。入居者が元気で意思表示できるうちに可能であ れば重度化した場合の意向を伺い、ご家族とも話し合 いをしている。どのような場合はホームでの対応が困 難か等も合わせて話をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りの経験が1例あり、管理者を中心にチームで取 り組めたことが職員の自信につながっており、職員の ターミナルケアに対する意識も高い。また、協力医療 機関が地域医療に熱心で、急変時も昼夜を問わず駆け つけてくれる体制となっているため、心強い。</p>	今以上に利用者や家族が安心して看取りケアを受ける ことができるよう、職員教育や環境整備にさらに取り 組んでいくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練へも参加し地域の自営団とも交流を持ち協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回の訓練を実施しており、地域の方にも参加してもらえるような体制作りを検討中である。非常時の際の備蓄品も備え、スプリンクラーを設置する等災害に対する意識が高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症高齢者への声かけや個人の人格の尊厳について勉強する機会を作り職員の意識改革の機会を作る。 (外部評価) 居室の入り口にのれんを掛け、ドアを開けていても居室内が見えにくいように配慮している。職員は利用者となれ合いにならず、かつ丁寧になりすぎないような接し方を心がけ、信頼関係を築いている。個人の記録は全てパソコンで管理し、日々の記録も携帯端末で入力する等、個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切にし職員が合わせるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と共に畑で作った作物と一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。 (外部評価) 利用者にも無理のない程度に、調理や食事の準備等を手伝ってもらっている。利用者同士で助け合う場面も見られ、良好な関係が築けていることがうかがえる。食事の内容を法人本部の栄養士に指導してもらおう等、栄養面での支援にも留意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排せつを促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によって布パンツを使用したり紙パンツを使用したりしている	
			<p>(外部評価)</p> 排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、さりげなく声をかけたりトイレ誘導をしている。可能な限りオムツの使用を減らせるよう支援しており、布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 体操、散歩、食事など気をつけ出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。緩下剤もその使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。	
			<p>(外部評価)</p> 2日に1回は入浴できるようにしているが、利用者の希望により毎日入ることも可能である。また、お湯の温度や時間等の利用者ごとの好みも把握して、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の後片付けや畑仕事洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握してお願いし、その都度感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きな入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩に出かけるようにしている。年に数回は家族と一緒に弁当をもって遠足に行ったりしている。 (外部評価) 天気や利用者の体調等を考慮しながら、近所を散歩したり、広い中庭で日光浴をするなどしている。年間の行事として花見や遠足、日帰り旅行等を計画しており、家族にも協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者がこづかいを持つことはなく買い物をしても職員が代行して支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節ごとの飾りをしたり毎食事時にご飯を炊くなど五感を刺激できるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) リビングや畳の間などはゆったりとした広さがあり、大きな窓から入ってくる光で居心地のよい共用空間が確保されている。ホームは住宅地の一角にあるため騒音もなく静かであるが、朝夕は近くの小学校に通う子どもたちの元気な声が聞こえて和やかである。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。畳の部屋で座って爪を切ったり新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持てている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族に協力いただき少しずつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇等を部屋に配置している。また、家族の写真や好みの絵・ポスターを飾るなどして、居心地よく過ごせる自分だけの空間を作り上げている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500097
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム けやきの里
所在地	愛媛県新居浜市大生院154-3
自己評価作成日	平成 21年 12月25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 1月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしい日常生活が過ごせるよう一人一人マイペースな生活ができています。ユニットの環境上重度の方もおられ、積極的な活動はあまりみられないが、職員が常時関わりをもてるよう寝たきりにさせない支援を行っている。週1回の音楽療法にも積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個人の記録は全てパソコンで管理し、日々の記録も携帯端末で入力する等、記録にかかる手間を簡素化し、同時に個人情報の取り扱いにも配慮している。地域との関わりも積極的で、ホームとして自治会に加入し、町内や公民館の掃除等の行事にも参加している。家族とは良好な関係が築けており、管理者をはじめ職員は家族の来訪時等に利用者の日々の様子を報告したり、利用者の昔の様子を聞き取るなどしている。また、家族もホームの運営に関心を持っており、ホームの庭の剪定作業等を行ってくれるなど、家族会を通じての積極的な関わりがある。また、多くの家族が会や行事に参加しており、意見や要望を出してくれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームけやきの里

(ユニット名) ツツジ棟

記入者(管理者)
氏名 松浦 しのぶ

評価完了日 21年 12 月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築し、近隣の方々と身近な関係を作っている。また、管理者職員は、日々の介護現場や職員研修、ミーティング等で理念を確認しあいケアの統一を図るよう努力している。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を的確に捉えて理念として明文化し、具体的に実践につなげているが、前法人からの急な運営引継ぎという特殊な事情もあり、職員全員で話し合いを持つまでには至っていない。管理者は、皆で話し合っよりよい理念を作っていきたいと考えている。</p>	職員は、現在の理念を十分理解した上で実践につなげているが、時期を見て全職員で理念について改めて話し合いを持ち、皆で作った理念を共有していけるよう、取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し、地域の活動に積極的に参加している。今年度は、自治会の活動はもちろんのこと事業での活動へも地域の方々が参加して頂けるよう努めていく。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、町内や公民館の掃除等には積極的に参加している。また、地域の中学生在が和太鼓を演奏してくれたり、ボランティアに来てもらうなど、ホームの行事等を通して交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症高齢者の理解を深める活動は、あまり出来ない状態です。事業所が開所して1年であり、今後積極的に取り組んでいくよう努めます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見や検討項目について職員会で 報告し、検討している。いただいた意見に対しては実 行できるように取り組み次の会で経過を報告してい る。	
			(外部評価) 行事に合わせて開催するなど、参加しやすいよう工夫 している。家族会の会長や民生委員も積極的に参加し ており、報告や意見交換が活発に行われている。ま た、職員も参加し、参加できなかった職員には職員会 で報告してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月事業所の入居者情報を市の介護保険係りに届け情 報を開示したり、情報をいただいたりしている。ま た、年間数回のグループホーム連絡会も市の会議室で 行い市町村の職員とも交流できている。	
			(外部評価) 待機者の情報や困難事例等の相談等で、市担当者と密 に連携をとっている。市内事業所の連絡会も開催され ており、地域包括支援センターの職員との関わりも深 く、協力関係を築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 今まで身体拘束を行わなければならなかった事例はな いが身体拘束については職員が理解できるように指導 できている。	
			(外部評価) 全職員にマニュアルを配布し、身体拘束について職員 会等で話し合っている。玄関の施錠は夜間のみとし、 利用者も簡単に開けることのできる形状のカギを使用 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について随時、話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り、話をする機会を持つように心がけ働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度等が必要な方については管理者が対応できるよう理解をしている。職員には制度や入居者の状況についての説明は行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書、入居規約等をもとに、ご家族が不安を持つことのない様に不明な点はないか尋ねながら説明を行い契約の作業を進めるよう留意している。入居前や面接時にも事前に出来る限りの説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の介護の場面、ご家族のご来訪時に職員が意向を聞いたり意見を言いやすい雰囲気を作っている。運営推進会議にも参加していただき市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。 (外部評価) 家族会が結成されており、剪定作業等の美化活動を積極的に行ってくれている。また、多くの家族が会や行事に参加しており、そこで意見や要望を出してくれている。管理者や職員は家族からの意見等を運営に活かそうと努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で意見を聞くようにしている。また、日々の業務の中でも気軽に意見が言えるような雰囲気をつくる努力をし職員の意見を反映させた運営を行っている。 (外部評価) 管理者は職員の意見等をよく聞いており、必要に応じて法人本部にも意見を伝えている。職員会等でも意見を出し合える雰囲気づくりに努め、サービス向上のための意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩から随時実践のアドバイスをうけられるようにシフトを組む、職員会において小規模な研修を行うなど職員の質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会し職員も勉強会に参加して他のグループホームの職員と交流し勉強できるようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時には事前に家族や担当相談員から情報を得た上で本人と面接しゆっくりと話をする時間を作っている。まずは、困っていることがないか伺い安心できるような言葉がけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時に十分な時間をとりこれまでの経過について話を聞くようにしている。今までどのような事に困っていたのか、不安なことはないか、入居後はどのような事を望まれているか、ゆっくり伺うように気をつけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり他のホームの紹介をするなどの対応をしている。受診が必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。漬物のつけ方や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え協力しながら生活をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の来訪時や家族会のおりには入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え協力いただいている。また、月に1度の「ふなとだより」により日常の様子やホームからのお願い事を伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の希望により知人宅に電話をかける支援をしたり訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、知人に電話をかけたリ墓参りに行く等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。また、馴染みの人や場を把握するために、利用前に家族やケアマネジャー等から情報を収集し、職員間で共有できるよう記録している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の事業所に移られた入居者を職員が訪ねたり、退居後も入居者のご家族が職員を訪ねて来られたり、管理者に介護保険関係の書類の相談にみえたりと継続したお付き合いが出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察するように心がけている。 (外部評価) 利用者との会話の中から把握した新たな情報等を職員会などの機会に話し合いながら、利用者一人ひとりの思いを大切にしていけるよう努めている。また、思いや意向の把握が困難な場合でも、家族に聞き取る等しながら利用者本位で検討し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力し把握できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。	
			(外部評価) 職員会でモニタリングや介護計画の作成等を行っている。利用者や家族の意見や希望も聞き取り、反映するよう心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録が電子処理になった為タイピングの練習中であり、気付きや工夫を詳しく日誌に記入できるまでには至っていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアサークルへの参加を今後積極的に取り組んでいきたい。傾聴ボラの取り入れも検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の訪問診療を受けたり、事業所の協力医 のほかご家族の意向を聞き通院の介助を行っている。 定期の受診は原則として家族の対応でお願いしている がご家族の都合により随時職員も対応している。	
			(外部評価) 専門医への受診は家族に対応してもらっているが、状 況により職員も関わっている。協力医療機関とは良好 な協力関係にあり、昼夜を問わず往診してくれる等、 安心な体制がある。また、職員の中に看護師がおり、 適切な医療を受けられるように体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員に看護職がおり、体調不良時の対応や日々の健康 管理を行っている。また、主治医と密な連絡体制がで きており随時訪問して頂けるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院 中は職員が様子を見に行き回復状況の把握に努め家族 とも連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の重度化に伴う指針を作成し入居時に説明して いる。入居者が元気で意思表示できるうちに可能であ れば重度化した場合の意向を伺い、ご家族とも話し合 いをしている。どのような場合はホームでの対応が困 難か等も合わせて話をしている。	
			(外部評価) 看取りの経験が1例あり、管理者を中心にチームで取 り組めたことが職員の自信につながっており、職員の ターミナルケアに対する意識も高い。また、協力医療 機関が地域医療に熱心で、急変時も昼夜を問わず駆け つけてくれる体制となっているため、心強い。	今以上に利用者や家族が安心して看取りケアを受ける ことができるよう、職員教育や環境整備にさらに取り 組んでいくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練へも参加し地域の自営団とも交流を持ち協力をお願いしている。	
			(外部評価) 年2回の訓練を実施しており、地域の方にも参加してもらえるような体制作りを検討中である。非常時の際の備蓄品も備え、スプリンクラーを設置する等災害に対する意識が高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症高齢者への声かけや個人の人格の尊厳について勉強する機会を作り職員の意識改革の機会を作る。	
			(外部評価) 居室の入り口にのれんを掛け、ドアを開けていても居室内が見えにくいように配慮している。職員は利用者となれ合いにならず、かつ丁寧になりすぎないような接し方を心がけ、信頼関係を築いている。個人の記録は全てパソコンで管理し、日々の記録も携帯端末で入力する等、個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切にし職員が合わせるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と共に畑で作った作物と一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。	
			(外部評価) 利用者にも無理のない程度に、調理や食事の準備等を手伝ってもらっている。利用者同士で助け合う場面も見られ、良好な関係が築けていることがうかがえる。食事の内容を法人本部の栄養士に指導してもらおう等、栄養面での支援にも留意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排せつを促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によって布パンツを使用したり紙パンツを使用したりしている	
			<p>(外部評価)</p> 排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、さりげなく声をかけたりトイレ誘導をしている。可能な限りオムツの使用を減らせるよう支援しており、布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 体操、散歩、食事など気をつけ出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。緩下剤もその使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。	
			<p>(外部評価)</p> 2日に1回は入浴できるようにしているが、利用者の希望により毎日入ることも可能である。また、お湯の温度や時間等の利用者ごとの好みも把握して、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の後片付けや畑仕事洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握してお願いし、その都度感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きな入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩に出かけるようにしている。年に数回は家族と一緒に弁当をもって遠足に行ったりしている。	
			(外部評価) 天気や利用者の体調等を考慮しながら、近所を散歩したり、広い中庭で日光浴をするなどしている。年間の行事として花見や遠足、日帰り旅行等を計画しており、家族にも協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者がこづかいを持つことはなく買い物をして職員が代行して支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの飾りをしたり毎食事時にご飯を炊くなど五感を刺激できるように工夫をしている。	
			(外部評価) リビングや畳の間などはゆったりとした広さがあり、大きな窓から入ってくる光で居心地のよい共用空間が確保されている。ホームは住宅地の一角にあるため騒音もなく静かであるが、朝夕は近くの小学校に通う子どもたちの元気な声が聞こえて和やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。畳の部屋で座って爪を切ったり新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持てている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族に協力いただき少しづつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。	
			(外部評価) 利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇等を部屋に配置している。また、家族の写真や好みの絵・ポスターを飾るなどして、居心地よく過ごせる自分だけの空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。	